



経友会ニュース



経友会会長
S49卒
海老沼 利 光

「モノづくりの大事さ」に思うこと

資源の無い日本にあって、工業が縮小し、「加工貿易立国」が成立しなくなる懸念があります。トヨタグループ、さらには日本のモノづくりに対する信頼の失墜も心配されます。

「社会を取り巻く環境変化」や「マネジメント手法・手段の技術進歩」に伴って、学ぶ領域は日々進化しています。しかし、進化する中において「何か大事なことを忘れていませんか!」(「現場・現物・事実確認」)「モノづくりやマネジメントの考え方」は永久に普遍であることを改めて思い起す、今日この頃です。

■次期校友会会長 推薦委員会の報告

次期校友会会長推薦委員会(R5年7月~10月)に経友会選出の委員として参加しました。

標記委員会は、会長改選時期に合わせて3年に1回設けられる委員会です。

9学科同窓会から選出された9名と校友会常任幹事の2名(校友会常任幹事1名+大学選出常任幹事1名)から構成される委員会です。

私は、初回開催の本委員会にて委員

長に任命されました。

学科同窓会の「輪番選出」ではなく、全学科同窓会から次期会長候補者を選出することを全員で確認し、審議に入りました。数回の審議の結果、2024年度次期会長候補者・皆川勝氏(1979年土木工学科卒・68歳)を選出し、校友会松村会長に2023年10月に答申しました。2024年3月開催の校友会幹事会への答申を経て、2024年5月の校友会総会にて上程されました。

経友会は、校友会会長皆川勝氏を支援・協力してゆきます。

■学生支援活動「エビ会」が7年目に突入!

経友会と学生が連携した活動「エビ会」は、2017年に始まりました。2023年で7年目を迎えました。経営システム工学科の学生が主体であったメンバーは「学科名称変更」に伴い、現在は、知能情報工学科の学生と(世田谷キャンパス)環境経営システム学科の学生(横浜キャンパス)が参加しています。オンラインによる活動を余儀なくされた「コロナ時期」を経て、2023年からは対面による「自主研究会ゼミ形式のエビ会」を継続しています。

■若手OBがタテに繋がる「エビ長会」をやっています

経工会の歴代会長6名、知湊会(元経工会)現会長(3年生)と前会長(4年生)と経友会の3役が中心メンバーの「タテに繋がる」OB会「エビ長会」が発足し、3年目になりました。現役

学生と卒業後1年目~7年目の若手卒業生の情報交換ができる貴重な「出会いの場」になっています。



■学科名称変更に伴い 最近思うこと

2019年4月に知能情報工学科入學した学生が、2023年3月に知能情報工学科の1期生が卒業しました。経営システム工学科と知能情報工学科の2学科名の併記期間を経て、2022年からは、すべての学年が知能情報工学科に在籍しています。

学科名称変更に伴いカリキュラムの大きな変更があり「学び、研究する専門分野領域」が変わっています。「生産管理、品質管理、原価管理、作業管理等」を中心とした経営工学領域を学び、この分野に関する実務に長年従事してきた私は、新しいカリキュラム分野の学習、理解に苦慮しています。学んだ「モノづくりの考え方」は普遍でした。

2023年度 経友会総会

2024年2月24日 13:10~18:00
東京都市大学 世田谷キャンパス
講演: ネット同時配信
挽野 元 (ヒキ/ハジメ)
アイロポットジャパン代表執行役員
講演、懇親会を昨年同様神奈川・湘南支部と合同で開催しました。



2022年度 経友会総会

2023年3月11日 13:00~17:00
東京都市大学 世田谷キャンパス
講演: ネット同時配信
大久保 寛基 (オクボヒロキ)
デザイン・データ科学科 教授
オンラインによるハイブリッド開催
講演、懇親会を神奈川・湘南支部と合同で開催しました。



「誠実って、何ですか？」

S 51卒 元准教授 細野泰彦

皆さん、お元気ですか？私は、今のところ元気です。4月で七十一歳になり、非常勤講師も卒業です。退職後の四年間も、二十八歳から勤めてきた母校での三十八年間も、アツという間でした。若い頃は、六十歳といえは大変なお爺さんだと思っていました。確かに外見や歳だけはジジイと言われるのはその通りですが、自身思うのは、今だに未熟者であると考えています。テレビの番組で人間国宝の立派な方々が、「まだ一生、勉強です」という述懐を口にされます。とてもその方とは比べ物になりませんが、その赤心の吐露は、私にもよく分かります。

今思うことは、四十三年間の大学教員として、誰に対しても恥ずべきことは一度もなく、誠実であることに努めてきたことだけ。これは、大学2年生の時に、恩師、石尾登先生の授業中の一言を、ずっと心に留めていたからだと思っています。

石尾先生は、原価工学の授業の中で、「諸君、誠実とは、どのようなことか分かりますか？」と質問されました。突然、その質問をされ、原価工学とどんな関係があるのだらうかと、まず思いました。先生は、しばらく私たちを見つめて、やおらその答えを説明されました。

「誠実とは、嘘をつかないことです。」ほう、誠実とは、ウソをつかないことなのか?!：それ以来、私は、石尾先生の言葉を信じて、私の授業中でも、石尾先生の言葉を引用することがありました。今でも忘れない大切な言葉は、当時の先生方から授けられたものです。

私の経営工学科で学んだ4年間では、こ

のように専門知識以外に、人生の先輩からの経験に基づいた様々な座右の銘となりうる箴言を頂きました。それらのどれ程を、私から伝えられたかは、定かではありませんが、できるだけ伝えようとしたことは確かです。私が母校で得られたことに對する恩返しに積りでした。

最近、美術館で名画を鑑賞することがあります。高校時代に「鑑賞」って、どうすればよいかさっぱり分かりませんでした。この歳になって、やっと鑑賞の意味が分かった気がしてきました。「美術品の鑑賞」は、その作品に對面する人の理解力の深さに応じて、その価値が分かることかなと思えました。つまり、受け手が作品の価値を理解する程度に応じて、「鑑賞」の深さが変わると。

一心不乱に直面する課題に向き合っていると、「誠実に」対処することを積み重ねていくと、ほかの人の精魂込めた「作品」を理解出来るようになると思います。自分自身は、ただひたすらに努力することが、大事だと思えます。その様な努力が重なる、作品の理解だけでなく、人々の行動や考えも分かるようになり、ひいては自分が何をすればよいのかも自覚できるようになると思に至りました。

私が今している事は、定年間際に執筆した5冊の生産管理、2冊の品質管理の教科書の改訂作業や、生まれ育った葉山町でのボランティア・地域活動などで、頑張っていることです。

あなたに質問です。「誠実とは、どのようなことだと考えますか？」



経営工学のスヌメ



経友会相談役
S 40卒
加藤友之

経友会ニュースの原稿を頼まれてペンを取りましたが、卒業六十年も経つと残念ですが忘れることが多くなり、あやふやな内容や時系列の間違いはどうぞお許しください。

会社経営をしていた父親がドイツでの工場視察で出会った簿記のできる工場長に感激して「簿記の学べる工学部へ向け。」の一言で、開設されたばかりの武蔵工業大学経営工学科に3期生として1965年に入學しましたが、経営工学がどんなことを勉強するのか皆目わかりませんでした。

先生方はできたばかりの学科の評判を高めるために、卒業生が少しでも良い会社へ就職できるようにと熱心に学生を指導されていきました。ですが私達3期生は先輩たちに比べて出来が悪いなどと言われ風評被害を受けたような気がします。

新設されたばかりの学科ですので授業は先生自身の実体験や哲学にそって自由な発想でそれぞれ講義をされていました。

ある先生は、前期試験の点数を参考に自分の希望する後期試験の点数を書いて出させました。まさに大学生とは自学自習の生徒であると思知りしました。

まだ学科としての活動が何もないので、2学年時(昭和三十七年)の大学祭(当時はM・I・T祭)では、遊びで品質管理のツールのひとつ「管理図」を使って夫の帰宅時間を分析する研究発表をしました。帰宅時間の変動要因はなにか?その改善と対策はどうすべきか?!

この研究発表は女性の来訪者にとっても好評を得ることができました。

また、翌年の全学祭では他大学に声をかけて関東経営工科学学生連盟を立ち上げ、三田の慶應義塾図書館で本格的に発足しました。この組織が後の経工会につながっていったのだと思います。

経工会では後に卒業3年位経ったOBの方々に大学に来ていただいて社会人生活の体験を学生に話していただく企画を2、3年続けた覚えがあります。

その後、一期生が卒業三十年を迎えた平成元年に全員に呼びかけ教員の参加も得て親睦を深める行事を行うようになりました。その母体として初代会長に横山宗夫が就任して経友会が設立され、現在まで卒業生の結びつきに貢献しています。

学生時代の思い出に残る授業は、経営工学を学び始めたばかりの2学年夏季の必修科目学外実習でした。九州の黒鉛電極を作る会社で運搬管理を任せられたが実務など何も教わってはいない状況で何をどうしたら良いか全くわからず、毎日が試行錯誤を繰り返しながらの勉強でした。ですがこの必修科目が大変勉強になり一番楽しい授業でした。

卒業して何年か経つてみると、経営工学科で学んだ事がようやく理解できて大変素晴らしい学科だと分り感謝することが多くありました。学んだ事を一言でいえば「なんとかなる経営工学」「色々な変化を学ぶ経営工学」「チャンスをおぼろげの経営工学」。人の集まる所に経営あり。学生に教えるのではなく考えさせる学科です。

将来のために何を勉強すべきか明確な答えは、なかなか見つかりません。どんなことでも広くあるいは深く勉強することに努め自身のインデックスを充実させることが大切だと思います。一番大事で大切なことは日頃なかなか表に出てこないのです。

社会に出て気付いた経営工学

R1卒 上村 俊 晴

2019年に卒業後、日産自動車株式会社に勤務し、IEグループで業務を行っています。業務の主な内容は会社の目標を達成するために現場の改善を行っており、最近では車の足回り部品の組立工程の効率化、生産性の分析、来年度の戦略検討をしています。改善提案を考えないといけない仕事のため、いつも大変で忙しい反面、飽きることはない仕事だと思っています。

仕事では学生時代に習った経営工学は非常に有効だと感じています。これは私が経営工学のコアであるIE業務を製造業で行っているからではなく、研究や営業といった他の職種、ITやサービスといった他の業種にも適用できると思っています。それは経営工学が会社の運営の基礎の部分を担当しているからです。学生の時には会社の運営を対象にした話は抽象的でイメージできず、当たり前を感じることを言われています。そのような感覚でいましたが、標準化や、QCストーリーのような課題解決のフォーマットは自業務を遂行する中で非常に重要なことだと痛感しています。抽象的な概念だからこそ、幅広い場面で適用できる学問だと感じるため、今後も勉強を継続していきます。

今の学生は知能情報工学でAIやシステムについて学んでいると思います。会社の中でも徐々にAIは使われ始めており、将来誰もが使うツールに進化していく過程を肌で感じています。今後の卒業生はそれらを研究開発するエンジニアになる方が多く

なると予想していますが、他の情報系を学んできた学生よりも、経営工学の持っている会社の基礎を大事にして、バランス感覚のあるエンジニアになってほしいと思っています。

今回執筆するにあたり、海老沼会長から現エビエメンバーで技術士の取得を目指しているという話を伺いました。私自身も学生時代に経営工学の技術士補を取得しており、同じ目標を持った先輩がいることを嬉しく思います。早いものですが私が取得した時からもう5年が経っており、記憶も曖昧なところはありますが授業で習った内容がそのままだった印象を覚えています。様々なことを学ぶ経営工学の中で大学においても、技術士の試験でも全く同じ内容が出てくるということは、裏を返すと大事なところは共通の認識を持っており、それは先程述べた会社の運営の基礎の部分なのかなと自分なりに解釈しています。私も2次試験は将来受験しようと考えているので、一緒に継続研鑽していきたいと思います。

最後になりますがこのような機会を頂きありがとうございます。



初めて釣った時の写真です(門司港にて)

日産工機株式会社 工場見学

コロナ禍で中止していた工場見学会を再開！

日産工機(株)元常務執行役員 福田光秋殿(S54 機械卒)のご協力をいただき、知能情報工学科1年生・3年生(知湊会)と経友会役員による「合同工場見学会」を実施しました。

経友会会長 S49卒 海老沼 利光

2023年3月6日(月) 14時～17時10分
日産工機株式会社(神奈川県高座郡寒川町)
会社説明 / 採用担当 福田光秋殿

生産統括部IEグループ 鈴木翔太殿
(2022年経営システム工学科卒 元経工会会長)

学習ポイントキーワード /

- NKギャラリ見学 ●誰でも、何でも、人にやさしいエンジン組み立てライン
- 作業指示をモニタパネル表示 ●ミスが発生しない仕組みの構築
- 超少量生産「匠デジタルライン」 ●映像と音声で作業指示
- 管理指標:SQC(コスト)C(生産)T(供給責任)E(環境)人財
- ものの置き場「床の定位置表示」 ●フレキシビリティのあるレイアウト(レイアウト変更を容易にする)キャスター付き台車
- 自主保全 ●かんばん・エフ管理 ●現場管理活動板
- モーションセンサーで人の動きを監視～ポカヨケ ●無人搬送車
- 生産進捗デジタル管理板表示 ●人に優しい作業環境改善



全国で活躍する経友会会員



東京支部長
S50卒
森下 修 至

校友会発足から十年、本部から要請があり東京支部が令和五年二月発足しました。

幹事会が幾度か開催され、こうしたものと相談を繰り返します。発足大会をとうことで校友会登録者や幹事の声掛けにより七十数名の方々が集まり盛大に発足の集いが行われました。

本学の卒業生は延べ十万人以上と言われていますが存命者の中で東京にはおそらく二万名近くの方々が居住されていると思われます。そう考えるとほんの僅かな方々の集まりです。東京エリアは日本の中心でもあり社会で活躍された方々今も現役で新しい時代のリーダーとして社会の中核となっている方々も少なくないと思います。このような同窓生が一堂に支部の集いに参加して戴けるよう今後の活動を行う所存です。

昨年度の行事は総会、十月にゴルフコンペ、十二月は同窓生である東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長目黒公郎教授による特別講演を開催、また教授を囲む懇親会もあり盛会のうちに終了しました。日頃、顔を合わすことのない同窓生が同じ時空で交流できる雰囲気は素晴らしい、まさに絆を結ぶ時間でした。未参加の方は次回ぜひその場を共有しましょう。

私自身は一九七五年経営工学科卒ですが勉強不足の劣等生です。所属サークルが当時のゴルフ同好会でした。ゴルフだけは一生懸命頑張りましたが、そのお蔭で多くの諸先輩・後輩に恵まれ五十年以上経過した

今でもそのお付き合いは続いています。

同窓会活動においてもそれらの方々の力が推進の肝になっています。サークル活動でのお付き合いは社会人となっても大きな心の支えです。ゴルフがきっかけで武蔵工業会のお手伝いをするようになり、卒業した科とは関係なく建築・土木・機械・電気・通信卒の諸先輩との交流も嬉しい時間でした。今後もこのような素晴らしい先輩・後輩の方々への感謝の気持ちを持ち続けていきたいと思っています。

私自身卒業後は父の会社を承継。豆粒ほどの会社を運営しています。たまたま全国の業界の長を十二年務め中小企業の団体である全国中小企業団体中央会との関りから厚生労働省・労働政策審議会の委員として「働き方改革等」諸法案成立の流れを勉強する事が出来、稀で且つ貴重な時間を体験しました。また社会保険庁解体後の「協会健保」の運営を評価する厚生労働省保険局所管評価構成員を事業主代表として七年間委嘱を受けています。二百万社の事業主代表として意見を述べる立場にあり健康保険制度維持に関し大変勉強にもなります。

新しい時代を迎え経営工学科は社会の変化に日々対応するカリキュラムを取り入れる教育の場となっているそうです。後輩の皆様が個性を發揮し躊躇せず様々な事象に興味を持ちDX化の社会にはばたき活躍される事を祈念しています。



2023.12.2 東京都市大学 世田谷キャンパス 1号館

1977卒 アラ古希Cクラス会

2023年12月2日 15:00 ~ 20:30
一次会：世田谷キャンパス ラウンジオーク
二次会：校友会館 自由が丘クラブ



60歳を過ぎてからスタートしたクラス会です。コロナ禍で休会が続いておりましたが、12月2日に4年振りの開催となりました。4年間のブランクでそれなりに老けた28人が大集合。まあ～～～良く飲み、良く食べ、良く語り、一瞬で学生時代に戻りました。あつという間の5時間を過ごし、皆満足顔で次回の再会を約束し、散会となりました。 小坂橋 正夫



お知らせ

相談役をお引き受けいただいている大久保先生の所属学科が異動になりましたので、お知らせ致します。



デザイン・データ科学部
デザイン・データ科学科
経営工学研究室
教授 大久保 寛 基